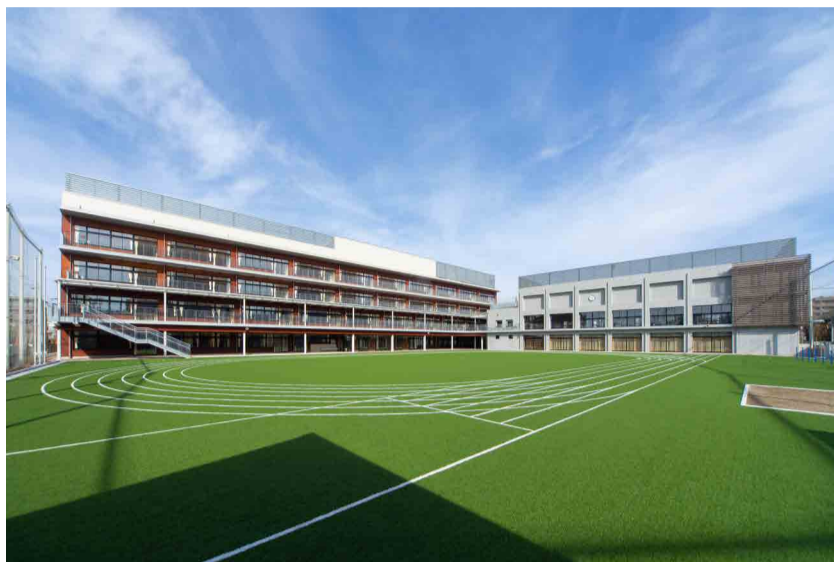


元気宣言

建物探訪

中原区 川崎市立小杉小学校

「ついに小杉小学校が完成しました!」



屋上スペースをフル活用した
屋上のプールとグラウンド

普通教室は全室南向き
運動会の際、バルコニーが
観客席に!

全面人工芝のグラウンド



バルコニー



木の温かみを大切にしたスタイリッシュな外観(センターストリート側)



全フロア到中庭からの
採光がある校舎棟



オープンスペース



エントランスホール

ステージとしても使える
Y字中央階段のエントランスホール



低学年用昇降口

2階バルコニーから直接出入りが可能な
低学年教室(1、2学年)



家庭科室と一体化が可能な
多目的ルーム

床、壁、天井には国産の杉材を使用
教室の扉を全面開放すると廊下と一体化した
発表スペースに変身!



給食室

食育を目的にエントランスホールから
調理の様子を見ることが可能な給食室

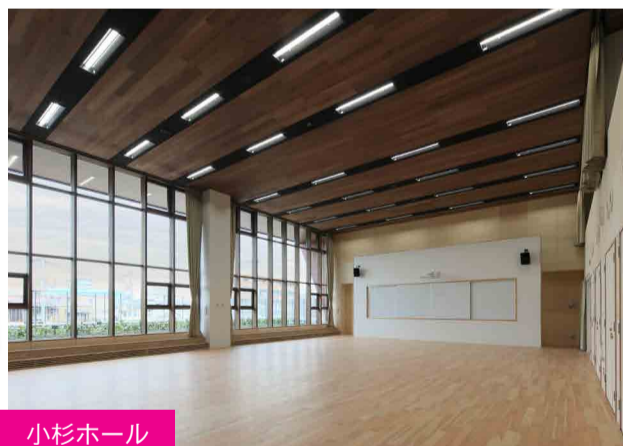


普通教室

全教室にWifi、プロジェクタを完備
光の乱反射を軽減する曲面黒板を採用



普通教室には気持ちを
リフレッシュするための
DEN(隠れ家)を設置



小杉ホール

小規模な発表会にピッタリの
総ガラス張りの多目的ホール

川崎市が日本医科大学より新丸子キャンパスの跡地を30年間の定期借地で賃借し、建設を進めてきた川崎市立小杉小学校。1年半におよぶ工事を終えて遂に完成しました。木の持つ温かみを活かした外観、緑に囲まれ、広々とした歩道や公園にも隣接し、地域の方々にとっても親しみやすい学び舎となっています。

しばらく続く子育て世帯の増加を見据え、教室は最大で30クラスまで増設が可能。限られたスペースを最大限に活用すべく、校舎の屋上にはプールと菜園、体育館の屋上にもグラウンドを設けるなど、各所に工夫が施されています。武蔵小杉再開発地区(医療と文教拠点)に完成した小杉小学校、この4月いよいよ開校です!

【物件概要】

- 名称/川崎市立小杉小学校
- 構造規模/鉄骨造5階建て(校舎棟)、RC造(体育館棟)
- 敷地面積/10,015.99㎡
- 延床面積/11,420.47㎡
- 所在地/川崎市中原区小杉町2丁目295番1
- 設計/川崎市まちづくり局施設整備部・榊設計
- 施工/建築工事:大山・野州共同企業体

【お問い合わせ】

☎ 0120-6600-62

受付時間 8:00~17:30
月~金 *土日祝休



株式会社 大山組

www.ohyamagumi.co.jp

Tel 044-411-3708 Fax 044-433-4595
〒211-0006 川崎市中原区丸子通1丁目 640-5



共同住宅 リフォーム

「新たな暮らし方、時代を先取りした二世帯住宅！」

中原区 S様邸

S様のお話



大山組さんのことは「元気宣言」で以前より知っていました。リフォームを考え始めた数年前、買い物帰りに大山組さんの事務所に立ち寄り、その際に頂いたアドバイスや予算感をベースに昨年春より本格的に計画を始めました。家から近かったために、私たちの仕事が終わった平日夕方からの打ち合わせが可能でとても助かりました。部材提案や図面変更などにも柔軟に対応して頂き、また「あずか〜る」（工事中の無料仮住まい・家財保管サービス）や不用品の処分など、リフォームに必要なこと全てを網羅したサポートの中で納得のリフォームができました。大変感謝しております！

3F



3F リビング After



Before

2F



2F ダイニングキッチン After

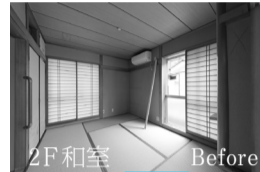
ワークスペースにもなる対面カウンター付きダイニングキッチン



内階段 After



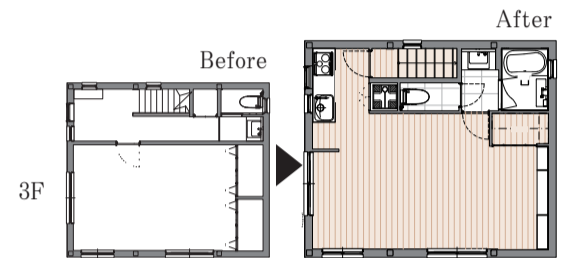
Before



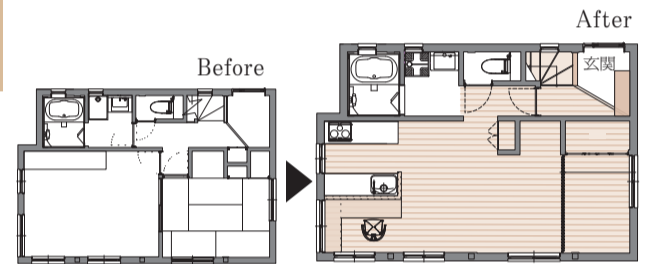
2F 和室 Before



2F リビング After



3F



2F

【物件概要】○工事内容/内装工事 ○用途/集合住宅
○築年数/30年 ○リフォーム面積/80.37㎡
○川崎市中原区天神町

中原区にお住まいのS様。この度、オーナー邸付き集合住宅のご自宅部分（2～3階）の80.37m²を、今後のライフスタイルの変化に柔軟に対応できるようにリフォームしました。2階はリビングと和室の間仕切り壁を取り払い、広々としたフローリング貼りのLDKに変更。3階にはキッチンと浴室を新たに設け、1フロアでも

生活ができる作りとしました。内階段で繋がる両フロアは、壁紙や床材、カーテンなどのインテリアには統一感を持たせる一方で、間取りはパートナーそれぞれの生活スタイルを尊重した独立した形に。生活スタイルの変化に合わせて家を変える。新たなリフォームの形を感じさせる、時代を先取りする二世帯住宅が完成しました！

社長の目から ウロコが落ちる



第5回

大山組は終戦直後の昭和21年、私の祖父の大山栄八が創設しました。祖父は若い頃は東急多摩川線沼部駅前にあった竹下組で働き、田園調布や下丸子周辺の宅地整備や、東急各線の土木工事などに携わりながら仕事を覚えたそうです。一代で今の基盤を築きましたが、私が物心ついたときには脳梗塞で病床にいたため、実際に話しをした記憶はほとんどなく、覚えているのはお正月の着物姿と、短髪白髪の厳しい顔つきだけ。現場に釘が一本落ちていただけでもったいないと怒号を飛ばしたとか、外向きにはとても感じのいい営業マンだったが家族や社員にはとにかく厳しかったとか、

自社ビルを余ったコンクリートで造った？など、真偽の程はともかくたくさんのエピソードを聞かされてきました。

社長となり7年。最近ふと、もし今、祖父が同じ年の友人だったらお互いをどう思うだろうと考えることがあります。祖父は戦後の騒乱を駆け抜けた創業社長。危ない橋も叩かず進むようなかなりの野心家だったでしょうが、こちらは跡継ぎの三代目。危ない橋など叩こうものなら周囲に全力で止められます(笑)。こうも立場の違う身ならば、友達になどなれないばかりか、生ぬるいと軽んじられていたかも知れません。

部下は上司が褒めてくれますが、社長は誰も褒めてくれません。うまくやるのが当たり前な因果なポジション。何かをするときに祖父ならどう考えるだろうと想像してみる。賛成？反対？褒めら

れる？叱られる？孫なら守れと言うところも、友人なら攻めろと言うのではないか？そもそも今の会社を褒めてくれるだろうか？いくら考えても答えはなく、結局どう思われても肝心なのは結果だけ。ならば答えなど求めず、自分で自分を褒めるくらいにしておきますか。今日も色々な想像を巡らせながら、まずは橋叩きから頑張ります(^)；

竹下組時代の
大山栄八(後列右端)
昭和十五年頃(三十七歳頃)



小杉小学校ができるまで



最終回

～引き渡し～



工事現場を支えてきた現場監督たち 引き渡しが無事完了しました！

2017年5月より工事の様子をお伝えしてきた「小杉小ができるまで」。お施主様への引き渡しも無事に完了し、遂にこのコーナーも最終回となりました。1年半にわたり現場を支えてきた現場監督たちの表情を最後にお届けします。建築工事はこの9名で延べ3万人超の職人さんたちを束ねて行われました。皆さん本当にお疲れさまでした！

360°ビュー最新画像はこちら



編集後記

大山組ビル7階の丸子テラス、地域交流や学びを支援する貸スペースとして営業開始から4年が経ちました。昨年度の会員募集を終了して以降、多くの方よりお問い合わせを頂いておりましたが、3月より2019年度新規会員募集を始めました。併せて4月からは会員様限定で使える「無料Wifi」環境も導入予定です。時期をみてテラスの様子も本誌でご報告したいと思います。テラスでの風が心地よいこれからの季節、みなさまのご利用お待ちしております！（た）

施工：大山・野州共同企業体